

地方独立行政法人福岡市立病院機構
令和5年度第1回理事会 議事録（要旨）

- 日 時：令和5年4月26日（水）16:00～17:20
- 場 所：こども病院 講堂
- 出席者：原理事長（議長）、瓜生理事、神坂理事、楠原理事、平田理事、近藤監事、柳澤監事
[欠席：堀内副理事長、石橋理事]

□ 議 事

【報告事項】

1 令和4年度業務実績報告書（案）について

<概要> 令和4年度に係る業務実績報告書（案）について、事務局より説明を行った。

（主な取組）

《医療サービス》

【良質な医療の実践】

- （こども病院）「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、コロナに係る小児救急医療の提供、移行期患者教育プログラムの実施、「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」の参加、「循環器集中治療科」「こどもアレルギーセンター」の新設、「アレルギー看護外来」の本格稼働を開始した。
- （市民病院）「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」として、コロナにかかる医療の提供、診療報酬改定に伴う入院料の施設基準の変更への対応、消化器内視鏡治療体制の強化、医療AI技術である内視鏡画像診断支援システムの導入、CTの更新、地域の総合的な脳卒中センターとしての体制の整備、救急科医師を招聘し救急受入体制を強化した。

【地域医療への貢献と医療連携の推進】

- （こども病院）地域医療支援病院、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、Webによるオープンカンファレンスや研修会等の実施、生後6か月から4歳の乳幼児に対する新型コロナウイルスワクチン接種を実施。
- （市民病院）Webを活用したカンファレンス等の開催、メールマガジンサービスの配信、新規開業した医療機関への訪問活動、3期目の看護師の特定行為研修の開講、在宅療養支援における質の向上を図った。

【災害・感染症等への適切な対応】

- （両病院）防災訓練や災害時参集訓練を開催し、職員の災害時等初動対応力の向上を図った。
- （こども病院）院内のCOVID-19対策本部を中心に、感染防止対策を講じるとともに、急増した小児の感染患者に対する休日診療を実施するとともに、重症度の高い救急搬送患者を積極的に受け入れた。
また、日本小児総合医療施設協議会の会員施設間で組織された災害発生時に関係医療機関の被害状況が確認できる災害用掲示板の構築に向け、関係機関との相互支援体制を整えた。
- （市民病院）コロナ対応3年目となり重点医療機関として中等症以上の患者を中心として受入れを継続するとともに、福岡市転院支援調整本部に協力し転院調整に従事した。
また、感染対策情報発信センターを設置し、地域の医療従事者向けの情報発信を開始するとともに、地域の医療機関や保健所と合同で感染対策訓練や院内クラスターが発生した地域の医療機関に医師等が出向いて感染対策に係る指導等を行った。

《患者サービス》

【患者サービスの向上】

- （こども病院）アレルギー食物負荷試験退院後の初回外来診療及び栄養指導をオンラインで実施するとともに、こども病院のLINE公式アカウントから各種外来予約の本格運用を開始した。
- （市民病院）全館で無料Wi-Fiが使用可能な環境の整備や総合案内への検温用・案内用ロボットの本格稼働により患者サービスの向上及び職員の負担軽減を図るとともに、全館のトイレ等の水回り改修工事を行った。

【情報発信】

- （こども病院）患者や医療関係者等にとって情報が探しやすいホームページの全面リニューアルを行うとと

もに、子どもたち向けの病院紹介等を掲載した「こどものページ」を公開した。

また、地域住民を対象に地元の公民館と共同で「こども病院生涯学習講座」を開催するとともに、アイランドシティフェスティバルに参加し、ドクターカーの展示等を行った。

- （市民病院）ホームページの全面リニューアルを行い、広報誌、オンラインイベントシステム等を活用した情報発信や出前講座を実施するとともに、看護の出前授業等を行った。

《医療の質の向上》

【病院スタッフの計画的な確保と教育・研修】

- （こども病院）ICTを活用したオンライン就職説明会やWeb研修、看護学生の実習受入などを実施した。
- （市民病院）派遣会社を活用して看護師を確保するなど、看護職員の負担軽減を図るとともに、意欲ある人材確保のため看護学校実習生を受け入れた。

また、医師の働き方改革や院内の年休取得率向上に向けた周知活動など、職員が長く働き続けられる環境づくりの推進、Web研修や勉強会等により職員の資質向上に取り組んだ。

【信頼される医療の実践】

- （こども病院）感染対策室と感染制御チームの連携、Web等を活用した地域の医療機関とのカンファレンスなど感染防止対策の強化、医療安全管理室による研修会の開催、ケアプロセス形式監査を実施するなど病院機能評価で明らかとなった課題の改善、薬剤師によるTPN無菌調整を一般病棟への拡大等安全性の向上及び医師・看護師の負担軽減を図った。
- （市民病院）感染症専門医を中心に院内の感染防止対策の徹底、Web会議室システムを活用した他病院との情報交換や相互評価等により地域における医療安全対策の質の向上に取り組んだ。

また、重大な事故等につながる前に回避できた事例を「GOODJOB事例」として積極的な報告を推進した結果、エラーに至る前に回避できた報告件数が増加した。

《自律性・機動性の高い運営管理体制の充実》

- 病院機構の運営を的確に行うため、理事会を開催し、決定方針に沿って自律的な運営を行った。
- 両病院ともに医療情勢の変化や患者のニーズに対応ができるよう迅速な協議や意思決定、情報の共有化を図るとともに、病院の実態に即した機動性の高い病院経営に取り組んだ。

また、情報システムの管理やセキュリティの強化、DXの推進等について、機構全体で一体的にマネジメントするための体制として「企画情報推進室」を設置した。

《事務部門の機能強化》

- 医師以外の全職員に勤務評価システムを導入した。
- マネジメント能力の向上等を目的として、係長級及び主任級への昇任者を対象に研修を実施した。

《働きがいのある職場環境づくり》

- 病児保育利用料助成制度及び産後パパ育休(出生時育児休業)を新設するなど制度の充実に取り組むとともに、全職員を対象にWeb動画を活用したメンタルヘルス研修及びハラスメント研修を実施した。
- （こども病院）福利厚生や育児・介護等の支援制度を周知する総務課通信の発行や同居家族がコロナに感染した場合に、希望者に病院が指定する宿泊施設への宿泊支援を行った。

また、医師のタスクシフトに積極的に取り組むとともに、医師の労働時間短縮計画を改定するなど、医師の時間外勤務の適正化に努めた。

- （市民病院）医師の働き方改革推進のため「働き方改革コアメンバー会議」にて適正な労働時間管理に取り組むとともに、他職種へのタスクシフト推進のため「タスクシフト/シェア推進ワーキングチーム」を設置し、資格取得やスキルアップ支援を実施した。

《法令遵守と公平性・透明性の確保》

- 管理監督者に対する Web 動画を活用したコンプライアンス研修や情報セキュリティ研修などによる個人情報保護等の職員の教育を徹底した。

また、令和 5 年 4 月施行の改正個人情報保護法に対応できるよう要綱や個人情報ファイル簿を作成し公表した。

《持続可能な経営基盤の確立》

- (こども病院) 執行部会議や運営会議を定期的に行い、効率的な病院経営について検討を重ね、決定事項等については迅速に所属長へ周知し、対策に取り組んだ。
- (市民病院) コロナ対策における福岡市の中核的な役割を果たすとともに、高度専門医療、救急医療について、可能な限り通常診療の継続に取り組んだ。

《収支改善》

【収益確保】

- (こども病院) 患者数・手術件数等のモニタリング及び協議を行い、効率的な病棟運用の実施、国や県の新型コロナウイルス関連補助金を含む各種補助金の申請、診療報酬改正に際し、的確な情報収集や適切な施設基準の取得及び維持管理に努め、院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に査定傾向の分析に基づいた診療報酬請求プロセスの改善活動を病院全体で実施した。
- (市民病院) 診療報酬改定へ対応するため、「病床管理会議」を設置し、毎朝状況を把握し、退院困難事例に関する調整や検討を行うとともに病床管理システムを導入し、円滑な退院促進と新入院確保に取り組み、急性期病床に係る入院料を維持、新規開業医療機関への訪問を実施、レセプト請求の精度向上や未収金の確実な回収に取り組んだ。

【費用削減】

- (両病院) ICT の活用による業務効率化や給与費比率の適正化、価格交渉等による診療材料費等の更なる縮減を行った。

《福岡市立こども病院における医療機能の充実》

- 厚生労働省 D P C 公開データにおいて、川崎病及び先天性心疾患に係る手術症例について、成人を含む全国の D P C 病院の中で症例数が 7 年連続で全国 1 位、臨床研究については、科学研究費助成事業（文部科学省）で研究代表として採択された課題等積極的な取組み、国際医療支援センターを中心に医療英語・中国語・フランス語研修の実施、臓器提供の申し出がなされた際に円滑に対応できるように外部講師による講演やシミュレーションを実施した。

《福岡市民病院における経営改善の推進》

- 感染症医療における福岡市民病院に求められる地域医療への貢献について早急に着手し、地域における感染症対策の質の向上に取り組んだ。また、コロナ専用の受入病床を確保（57 床）し、福岡市におけるコロナ対応の中核的な役割を果たしながら、通常診療を途切れさせないため、診療科や病棟の垣根を越えた患者受入れを行うとともに、紹介患者の確保のための広報活動や新規開業医療機関への訪問活動等の取組みを重点的に行った。

さらに、コロナの 5 類移行に向けて、ワーキングチームを設置しポストコロナを見据え、安定的な医業収益の確保と収益改善に向けた取組みを開始した。

- 中長期修繕計画に基づき、緊急性の高い 2 階機械室の防水工事や療養環境改善のためのトイレ等水回り改修工事を実施した。

＜主な意見等＞

- 「アレルギー看護外来」を本格稼働した結果どのようなようになったのか。
- アンケートを実施したところ、医師に伝えきれなかったことを相談できたなどの回答を得られた。
- 7 対 1 看護体制とは、看護師 1 名で患者 7 名の看護をするとの認識でよいか。

- そのとおりである。
- 市民病院の看護師の離職率が全国平均より低く抑えられているが、何か工夫したのか。
- 応援体制の充実や倫理カンファレンスの実施、目標管理面接で管理者がよく話を聞く等のサポート体制を充実させた。
- こども病院においては、看護師の令和4年度の離職率が10.4%程度であるが、様々なサポートや協力、指導を行っており、当院は重症度が高い患者を受け入れていることや、ご家族の方からの要求等も多く、前年度は小児のコロナ患者が多く、その中でも重症度の高い患者も多くいたことによる疲れ、県外への移動制限も緩和されたことなどから退職した者が相当数いたものと思われる。
- 看護師のメンタル面を含めてどのような状況になったとしても管理者の対応やチームのサポートがうまくいけば離職者がどんどん増えることはないことが分かった。
- 働き方改革については、次年度に向けて積極的に膨らませたり中身を詰めたりすることが大事である。
- 福岡市立病院機構の保育所があるのか。
- 福岡市立こども病院の敷地内に保育所を設置している。
- 若い看護師が結婚後も働き続けてもらうためには子供が生まれた後に安心して預けられる場所がないと、なかなか残ってもらえないのではないかと思うため市民病院のあり方を検討される際には設備の設置も考えた方がいいのではないかと思う。
- 今後の状況に応じて、検討できる状況であれば検討したい。
- 収支により剰余金が発生した場合に、どのように取り扱うのか。
- 次期中期計画に繰り越せる設備等の投資資金について福岡市と協議を行い、繰越額以上の剰余金があれば福岡市へ返納するようになっている。